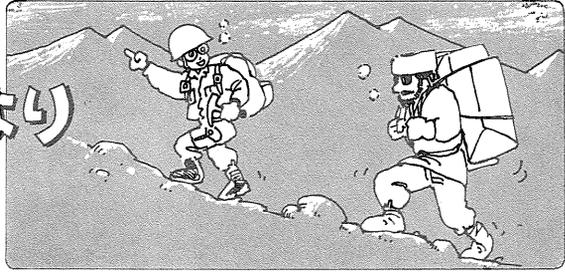


海外室だより



No. 19

沿海・地下水ふたつの集団研修無事終了 ともに発足以来満20年を経過した沿海・地下水のふたつの集団研修コースは 去る12月12日にそれぞれ昭和61年度の閉講式を行い 無事終了しました。両コースとも研修員から高い評価を得まして 所期の目標を達成できたものと研修担当者一同喜んでおります。これはひとえに皆様方のご支援の賜物であり 関係各位に厚くお礼申し上げます。両コースの詳しい研修報告書は別途公表されますので ここでは沿海コース7か月 地下水コース4か月の課外的话题をひろってお伝えしましょう。

地質ニュース 386号(1986年10月号)でご紹介しましたとおり ふたつのコースには20周年の記念シンボルマークが河村幸男さんのデザインで誕生しましたが もうひとつ実は“Offshore Prospecting Course” 又は「地下水」と鮮やかに染めぬいた はっぴ(印半纏—しるしばんてん)も作られました。はっぴは Happy につながる

というので外国人にはすこぶる評判がよく 大量生産と思いきや 何しろ hand-made のため限定27着に留まりました。したがって可能性は非常に低いものの 海外の思わぬところで このはっぴを着た外国人に会えるかもしれません。その外国人は間違いなく地質調査所集団研修の卒業生もしくは縁故者です。

さて沿海コースは宴会コース 地下水コースは地下酔コースとも呼ばれるように 今回の研修員の中にも相当な隣蛇(うわばみ)が複数いました。名誉のために名前は伏せますが 本来なら宗教上の理由で飲酒御法度のある研修員は日本では一時的な改宗を行い よく飲みまた飲み 来日後数日にして Dr. of Whisky の称号をもらいました。必然的に研修担当者の酒量も増えてしまいました。

称号の話題のついでに 研修員のあだ名の中からユニークなものを挙げてみますと Super Mario (スーパー

写真-1

沿海チーム対地調チームのサッカー交流試合(7月9日筑波にて) この試合は学園リーグの2部で活躍する地調チームの勝ち。ブラジルのナショナルユニフォームを身につけたミッシェルさんは残念そう(ただしこの部分は合成写真です)。

写真-2

木下・河村両氏の傑作—はっぴ(右: Off-shore Prospecting Course 左: 地下水)

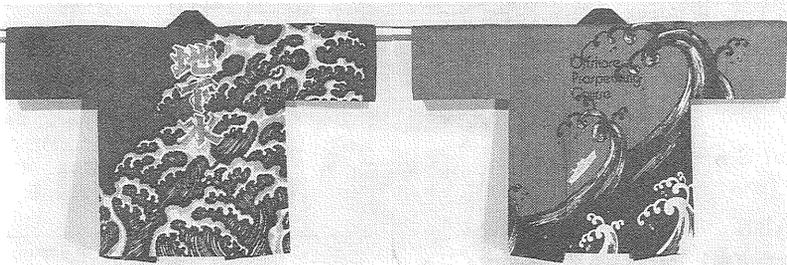




写真-3 天気のいい お昼休み、近くの公園へピクニック



マリオ Uncle Tom (トムおじさん) Cleopatra (クレオパトラ) Mark Antony (アントニウス) Hungry (ハングリー) Mt. Mihara (三原山) Daiei (ダイエー) Jusco (ジャスコ) Offshore Baby (オフショア・ベイビー) Terrorist (テロリスト) ……、当事者にしか由来と人物が分からず申し訳ありません。

さて集団研修は もちろん研修担当者だけの力のできるものではありません。恐らく研修員の10数倍の数の人達の総力があって初めてまとまるものと考えられます。この点では今年度は地質調査所の青年層の皆様深く感謝しなければなりません。といたしますのは研修員とのスポーツ交流を図ってくれたからです。夏の暑い盛りにサッカーの対沿海チーム戦（地質調査所チームの勝ち）晩秋の夜のバスケットボールの対沿海・地下水合同チーム戦（合同チームの勝ち）など アフター5に大活躍でした。

とにかくふたつのコースで16か国21人 彼らと毎日のように接していると 自然と親しみと友情が深まってきます。彼らとの友情の芽をその年度限りで萎めてしまうことなく大きく育てることは とても大切なことです。一衣帯水とはよくいったもので 沿海コースも地下水コースもともに水によって彼らと隣りあっているのですから 帰国後の研修員とのコミュニケーションを個人レベルだけでなく継続させることが重要でしょう。

個性あふれる昭和61年度の研修員が 研修で得た成果を多いに発揮し 日本での生活体験を少なからず役立ててくれることを期待しています。

(研修担当者一同 文責：石井)

いんぶれっしょん of ふぁーすと ふぁりなーず

いままで外人とみれば 3m以内には近づかないように ぜったいに目線などあわせないようにと心がけ 話

しかけられないよう気を配っていた私が 5月から海外室にやってくるまで半年あまり おどおどながらも研修生と接してきました。はじめは 相手のいうことがまったくわからないので悪いな—と思っていたけど なんのことはない わかったふりをして Yah Yah うなずいてたまに首をかしげたり 運よく知っている単語が聞こえれば 知ったかぶりにリフレインすると 彼らは 私がそれなりに聞いていると思ってくれます。フェアウェルパーティーのあと 彼らの何人かと話し(?)ましたが 彼らは日本をはめてくれて そして自分の国もとてもすばらしいから ぜひきてくれよ (私にはそういっているように思えた) と口をそろえました。私はそのとき “I hope” なんていってましたけど 思いきって “Yes I will!” の方がよかったかな? 彼らは本当にいいヤツばかりで もうちょい私が積極的だったら もっと楽しくすごせたかも…… 彼らがまた日本に来るころにはもう少し英語しゃべれるようになってほしいですね。

Good Bye Nice Friends of Mine! (河村)

地質ニュース	第390号	2月号
	定価 ¥ 630	〒実費
昭和62年2月1日	発行	
編集	工業技術院地質調査所	
発行人	林久雄	
発行所	株式会社実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	〒102	
	Tel. (03)265-0951(代表)	
	振替口座 東京1-32466	
総発売元	株式会社実業公報社	出版事業部